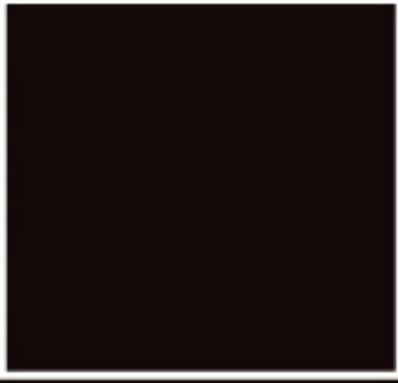
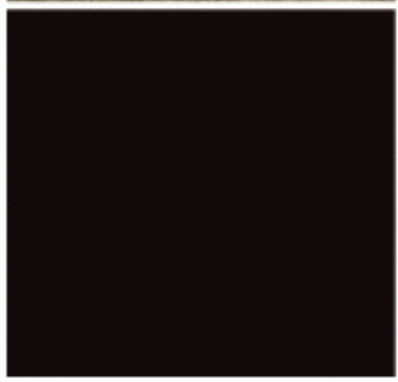


尾花沢市史



尾花沢市史下巻：平成22年2月下旬発刊予定

体裁：A5版／布クロス上製本 ケース付／約800ページ

価格：3500円（税込み）

※上巻（5000円）＋下巻（3500円）通常価格8500円→特別セット価格：7000円

取扱所：尾花沢市芭蕉・清風歴史資料館…尾花沢市中町5-36 電話(0237)22-0104

文長…尾花沢市若葉町3-1-1 電話(0237)22-0031

鈴木書店…尾花沢市中町2-59 電話(0237)22-0142

尾花沢市史編集員：横山昭男（編集長）／菅藤清一郎／高桑順一

尾花沢市史下巻執筆者：石塚清（尾花沢市役所建設課課長）／伊藤大介（東北大学百年誌編集室教育研究支援者）／梅津保一（尾花沢市歴史文化専門員）／大類誠（尾花沢市教育委員会社会教育課課長補佐）／加藤金男（元尾花沢市史編集委員会事務局長）／菅藤清一郎（元東根工業高等学校教諭）／佐藤大介（東北大学東北アジア研究センター教育研究支援者）／菅野與右衛門（尾花沢市役所市民税務課課長補佐）／鈴木清一郎（尾花沢市芭蕉・清風歴史資料館運営委員長）／高桑順一（元新庄南高等学校教諭）／椿井達也（尾花沢市教育委員会社会教育課主事）／三浦幹雄（宮沢地区歴史保存会事務局長）／三宅太一郎（元尾花沢市議会議員）／横山昭男（山形大学名誉教授） ※五十音順・敬称略

問い合わせ先：尾花沢市教育委員会 社会教育課文化財係 電話(0237)22-1111

ふるさとの歴史、しっていますか。

下巻

平成22年2月下旬発刊予定



尾花沢市史 下巻 2月 下旬 発刊 予定

『尾花沢市史』下巻は、明治から平成までの、尾花沢の歴史を描いています。わたしたちのおじいちゃんやおばあちゃんが築き上げた時代に触れ、郷土の姿を見直してみませんか？

— 尾花沢市史 上巻 発売中 —

尾花沢市史上巻では、尾花沢市の自然及び原始から江戸時代の歴史を綴っています。

第一章 尾花沢の自然

第二章 原始時代の尾花沢

第三章 出羽の開拓と尾花沢地方

第四章 中世の展開と尾花沢

第五章 中世古代の宗教文化

第六章 幕末聖の展開と尾花沢

第七章 延沢銀山の繁栄と衰退

第八章 中世農村の展開と農民の生活

第九章 商品経済の発達と幕末の活動

第十章 街道と宿駅

第十一章 幕末期の政治と社会

第十二章 近代尾花沢の文化と宗教



1 章 明治維新と尾花沢

幕末の動乱の中、尾花沢の有力者たちは様々な問題に奔走しました。新時代を切り開いた人々を描きます。

5 章 大正期の尾花沢

電気や電話は大正期に広まりました。尾花沢鉄道や銀山温泉が大幅に整備されたのもこの時期でした。

2 章 町村制の施行と新しい村の誕生

36の村々は、尾花沢町・福原村・宮沢村・玉野村・常盤村に編成されました。各町村の生い立ちにせまります。

6 章 近代農業の発達と耕地整理

米の生産増を目指して耕地整理が進み、徳良湖が築堤されました。花笠踊りの成り立ちに触れます。

3 章 明治期の産業と経済

産業経済は激変し、道路や鉄道などの交通網も大幅に発達しました。社会変革の実態を明らかにします。

7 章 昭和初期の農村

雪害が、問題としてクローズアップされたのは、昭和初期でした。凶作などに揺れた時代を描きます。

9 章 戦後の混乱と復興

敗戦後、人々の生活は一変しました。教育の一新や産業復興の様子に着目し、尾花沢の戦後を明らかにします。

12 章 高度経済成長期の尾花沢

高度成長期、市では様々な大規模事業が展開されました。社会教育施設の整備も進みました。

4 章 明治・大正期の社会と災害対策

近代にも伝統的慣習は残りました。当時の人々のくらしと社会問題を、日記などの史料から紹介していきます。

8 章 戦時体制下の社会と生活

第二次大戦では、尾花沢からも多くの若者が戦場へとおもむきました。教育も軍国主義的なものとなりました。

10 章 戦後の改革と民主化

尾花沢は、戦後の農地改革による影響が特に大きな地域でした。教育制度も変わり中学校ができました。

13 章 高度経済成長期以後の尾花沢

市制施行以来、尾花沢市では五次にわたって総合振興計画を策定しました。身近な昔を振り返ります。

11 章 五カ町村合併と市制施行

昭和29年に5カ町村が合併し新尾花沢町が誕生、34年に市となりました。新しい市の進展を追いかけます。

14 章 尾花沢の歴史と展望

原始古代から現代までの尾花沢の足跡を、総括的にたどります。未来へ向けての指針と展望を示します。

